



発刊にあたって



JA きたみらい 外郭三組織  
10周年記念誌  
発刊にあたって

JA きたみらい青年部

平成26年度 部長 米 森 弘  
実行委員長

平成15年のきたみらい農協発足と同時に連絡協議会を立ち上げ、既存の8JAの青年部によって後の一本化を目指した「JAきたみらい青年部」が創設されてから、早くも10年の「節目」を迎えることになりました。

この度、長い足跡を記録として留めるため、一緒に歩んできた女性部・フレッシュミズとともに「JAきたみらい外郭三組織10周年記念誌」を発刊する運びとなり、関係機関、諸先輩方や多くの青年部盟友・女性部員・フレッシュミズ会員のご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

三組織を代表する10周年記念事業実行委員長として、お礼申し上げます。

「JAきたみらい青年部」の形ができるまでには、多くの諸先輩方の英知と努力と膨大な時間をかけた取り組みがあり、今日までこの組織が発展し続けてこられたのも、途絶えることなく受け継がれた合併当時目指した高い志によるものと思われまふ。ここに諸先輩方の功績を称えるとともに心から感謝を申し上げます。

現在、私たちを取り巻く環境は、日々刻々と変化しています。少子高齢化に伴う農家戸数の減少やTPP交渉への参加など、問題は山積しています。そんななかで、私たち青年部は活動を通して一致団結しこの荒波を乗り越え、次の世代へとバトンを継がなくてはなりません。それが私たちの責務であり、途中で投げ出すようなことは絶対にしたくありません。

この目標を貫くために、私たちは改めて「JA青年組織」の価値を認識し、今後のあるべき姿を想像し、すべての盟友が一丸となって前向きに取り組んでいくことが大切だと強く感じております。今が、私たちにとって「変革の時」です。活動にあたり新たな試みも行っていますが、今後益々広い視野を持った考え方が必要になります。これからのJAきたみらい青年部が、諸先輩方によって築かれた功績に傷をつけることが無いよう、10年後、20年後の道筋を作るべくしっかりと話し合い、コミュニケーションを取り合いながら進んでいきたいと思ひます。

最後になりましたが、日頃より青年部活動にご協力いただいている盟友の皆様、並びにJAをはじめ関係機関の皆様へ厚くお礼申し上げます。

今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、発刊の挨拶とさせていただきます。



JA きたみらい 外郭三組織  
10周年記念誌  
発刊にあたって

JA きたみらい女性部

平成24・25・26年度 部長 齊藤 のり子  
副実行委員長

この度、JAきたみらい女性部が10周年を迎えることができ、諸先輩方や部員をはじめ、「魅力ある女性部作り」に協力いただいているJA役職員の皆様、各関係機関の皆様のお陰であると、感謝の気持ちで一杯でございます。

諸先輩方の多大なるご尽力のもと、8JAそれぞれの思いをひとつにまとめて作り上げたJAきたみらい女性部は、時間の経過と時代の変化に伴い生じる課題に向き合いながら、今日まで歩んでまいりました。

現在は部員から要望が挙がった介護施設の設置について、地域で説明会を実施し、行政の方にもご協力いただきながら、本当に求めているものは何かを明確にし、実現できるよう少しずつ取り組んでいます。また、大きな課題はやはり部員数の減少です。毎年少しずつ仲間が減っていく状況はとても寂しく、このままではいつか女性部が無くなってしまいう時が来るのでは、と心配でなりません。JAきたみらいという大きな組織から、女性の声を発信する場を無くさないよう、そしてフレッシュミズ世代の受け皿として在り続けられるよう、みんなが楽しめる活動や入りやすいルール作りを今一度見直していかなければと思っています。

また、外郭組織回り順で国内外農業視察研修を実施していますが、「魅力ある女性部作り」の一環として、女性部でも実施しております。平成24年度に訪れたJA紀南にて、「女性に見捨てられたJAに未来はない」と題した、当時の中家組合長の講演を拝聴しました。農家は女性の力がなくては成り立たないものだ改めて感じ、次の20周年の時にもっと女性が積極的に経営や農協運営に参加・参画している時代になって欲しい。そして農業に関わる諸問題を女性の目線から考えて、きたみらい管内だけでなく食糧基地・北海道を支えていければと強く思いました。

このように私たちには多方向に課題がありますが、私が最も大切だと思っていることは、現在の8支部の横のつながりを深め、もっともっと絆を強くしていくことです。私自身、支部長・部長を務めたことで、支部の枠を越えた大切な友人がたくさんできました。農作業の合間にランチに行き愚痴をこぼし合ったり、修学旅行のように枕を並べて朝までおしゃべり出来るような、女性部に入っていたからこそ出会えた仲間です。私のように女性部活動がより楽しく充実した農家生活を営む糧になり、「女性部に入っていてよかった」と一人でも多くの部員に感じてもらえることを、願ってやみません。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますことをお願い申し上げます、発刊の挨拶といたします。



JA きたみらい 外郭三組織  
10周年記念誌  
発刊にあたって

JA きたみらいフレッシュミズ

平成26年度 会長 坂下 あゆみ

JAきたみらいフレッシュミズは、設立10周年を迎えました。この日を迎えられたのは、設立にあたりご尽力いただいた連絡協議会役員の皆様、歴代会長をはじめとする本部役員・会員の皆様、並びに日頃よりフレミズ活動の発展・充実にご協力いただいているJA役職員・関係機関の皆様のお陰だと思っております。さらに何よりも、フレミズ活動を理解し、快く「いっておいで」と背中を押してくれる青年部・女性部を含めた家族の協力が大きな支えになっており、会員を代表し心より感謝申し上げます。

この度、会長職に就き強く感じたことは、この10年の中には「より良いフレミズ活動のためにはどうしたらよいか」という思いがたくさん詰まっており、代々その思いが受け継がれているということです。何事も新しく変わるときには期待と不安が入り混じるものです。8つのJAが合併したとき、「1つにまとまって活動することはできるのだろうか」「知らない支部の人たちと仲良くできるのだろうか」など、当時の会員の方は不安の方が大きかったのではないのでしょうか。ですが、今はそんな不安を感じさせないくらい、8支部の交流は垣根を越え、年々深まっています。

平成21年から始まった支部合同研修会の運動会は、支部混合のチームですが、優勝の目標に向かって協力し合うことで、普段よりもぐっと距離が縮まり仲良くなれることから、「楽しい！」と好評で毎年多くの会員が参加してくれます。

また、今年初めて開催した学習会には、多くの会員が参加してくれました。今年度から託児専用の助成金をいただけることになり、小さなお子さんのいる方でも今までより気軽に参加できるようになったことや、会員同士で「一緒に参加しよう！」と声を掛け合ってくれたことが成功の要因だったと思います。

しかし、このように多くの会員が参加してくれる行事がある一方、年々会員数の減少に歯止めがかからないという現実もあります。そこで、フレミズ未加入の方への加入促進にも力を入れようと、今年度の本部役員で話し合い、取り組んでいるところです。

さらに、今、フレミズはエリアへの再編に向けて動き出そうとしています。不安もありますが、会員同士が声を掛け合い、「フレミズって楽しい！」を次世代に繋いでいくことで乗り切れると、私は信じています。

最後になりますが、皆様へ今後ともフレミズ活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます、発刊の挨拶とさせていただきます。